

2022年
7月

県内景況・確報

◎概況 **県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している。**

●2022年7月 おきぎん「カトリア」景況図●

県内景況



やや悪い

個人消費



やや悪い

建設関連



ふつう

観光関連



やや悪い

企業倒産



やや良い

雇用状況



やや悪い

7月の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベース共に前年同月上回りました。百貨店売上高は、前年同月上回りました。耐久消費財である新車販売台数は前年同月上回り、中古車販売台数は前年同月を下回りました。

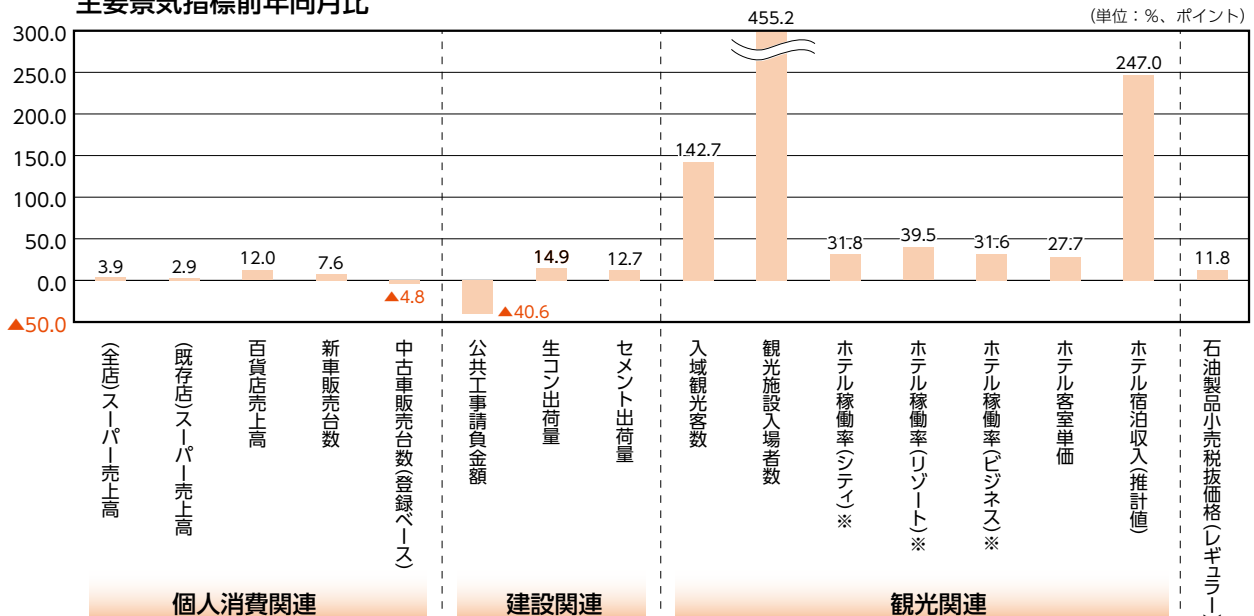
建設関連では、公共工事請負金額は前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月上回りました。

観光関連では、入域観光客数は前年同月上回り、観光施設入場者数も前年同月上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてにおいて、前年同月上回りました。ホテル客室単価、宿泊収入（推計値）においても前年同月上回りました。

総じてみると、個人消費は、感染症の影響による下押し圧力が弱まるもとで緩やかに持ち直しており、建設関連は、弱い動きが続いています。観光関連は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続く中、緩やかに持ち直しています。よって、**「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くものの、緩やかに持ち直している」**と景気判断を据え置きました。

(2022年6月の上方修正から2か月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比





個人消費



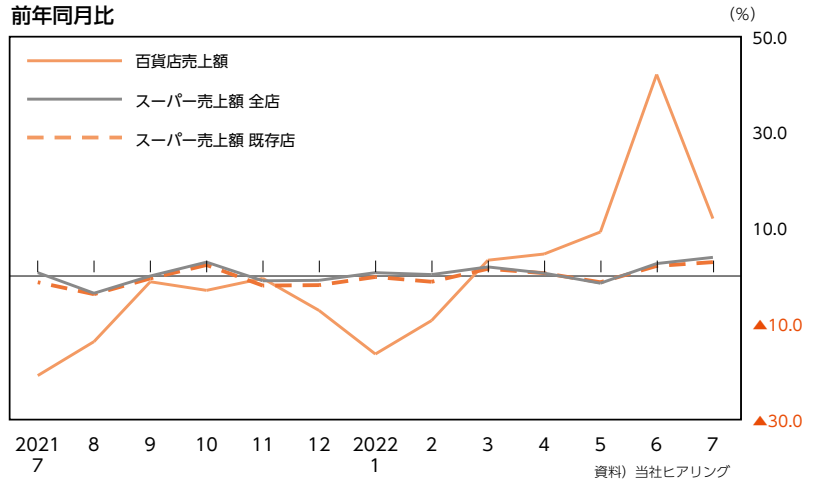
(やや悪い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベース共に前年同月を上回る。百貨店売上高は、前年同月を上回る。

7月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比3.9%増)」は、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、「食料品(同3.6%増)」、「衣料品(同6.3%増)」、「家庭用品(同7.5%増)」は前年の時短営業の反動による来客数の増加や新規店舗出店などにより、前年同月を上回りました。

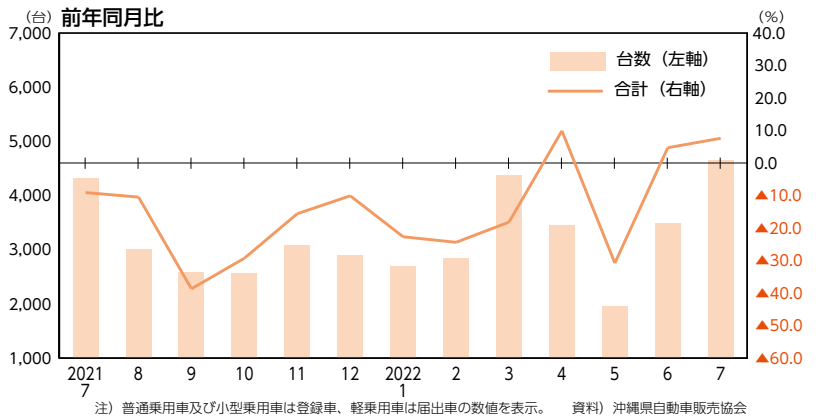
「既存店ベース(同2.9%増)」は、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。品目別では、ウエイトの高い「食料品(同2.7%増)」は前年の時短営業の反動による来客数の増加や一部物価高の影響などにより、前年同月を上回りました。「衣料品(同6.4%増)」、「家庭用品(同3.2%増)」は来客数の増加などにより前年同月を上回りました。

百貨店売上高は、前年同月を上回りました(同12.0%増)。内訳をみるとウエイトの高い「衣料品(同19.5%増)」、「身廻品(同26.1%増)」は、前年に比べ人流が回復したことや、天候要因の反動などによる来店客数の増加により前年同月を上回りました。「食料品(同0.0%)」は前年同月に開催した催事が今年は開催されなかったものの、来店客数の増加により前年同月並みとなり、全体としては5ヵ月連続で前年同月を上回りました。



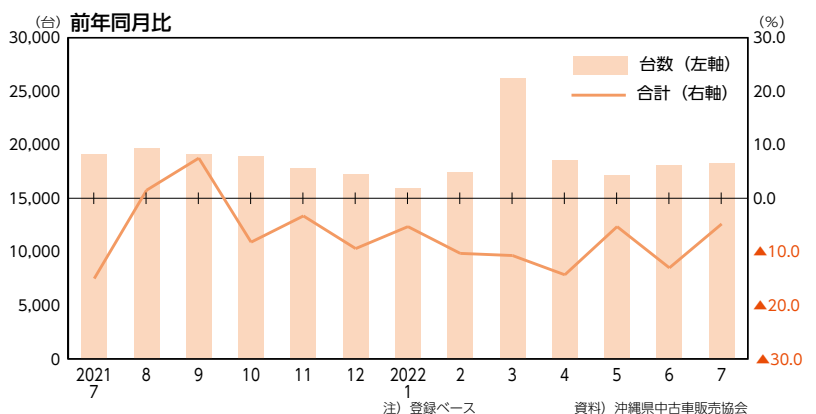
② 新車販売台数…新車販売台数は、前年同月を上回る。

新車販売台数は、全体で4,645台(同7.6%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「軽乗用車(同13.0%減)」は、半導体の不足が継続していることなどにより、前年同月を下回りました。「普通乗用車(同37.3%増)」、「小型乗用車(同13.1%増)」は観光シーズンに伴うレンタカー需要の増加などにより、前年同月を上回りました。
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



③ 中古車販売台数…中古車販売台数は前年同月を下回る。

中古車販売台数(登録ベース)は、全体で18,233台(同4.8%減)となり、10ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「乗用車(同9.2%減)」、「軽自動車(同1.6%減)」共に新車の供給台数が減少していることが要因となり、中古車市場における車両台数が減少していることや市場の供給減少に伴う価格高騰などにより、前年同月を下回りました。

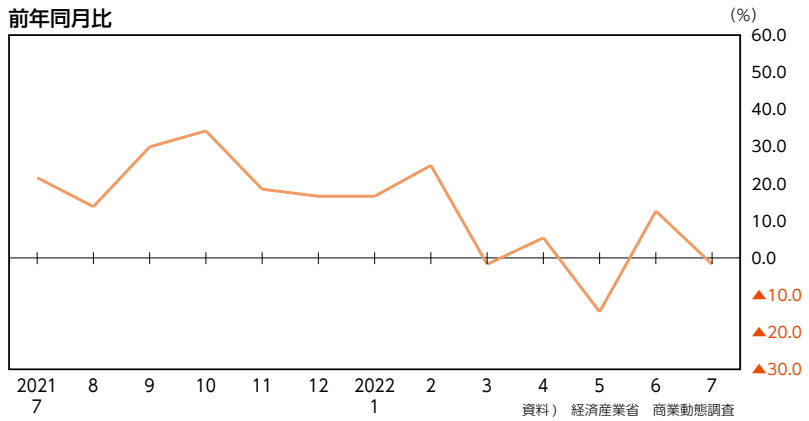


④ 大型家電専門店販売額…販売額は前年同月を下回る。

7月の大型家電専門店販売額は2ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

下回った要因として、夏物家電が例年に比べ先行して販売されていたことなどが挙げられています。

※コメントについては商業動態調査を基に小売店へ弊社が独自にヒアリングを行ったものになります。



建設関連

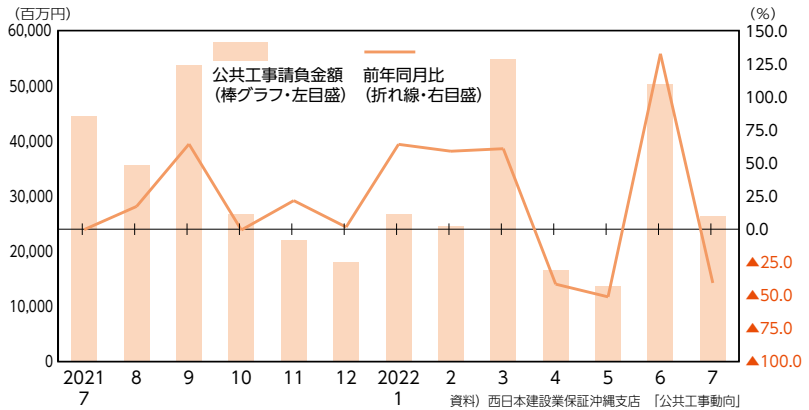


(ふつう)

① 公共工事…公共工事請負金額は前年同月を下回る。

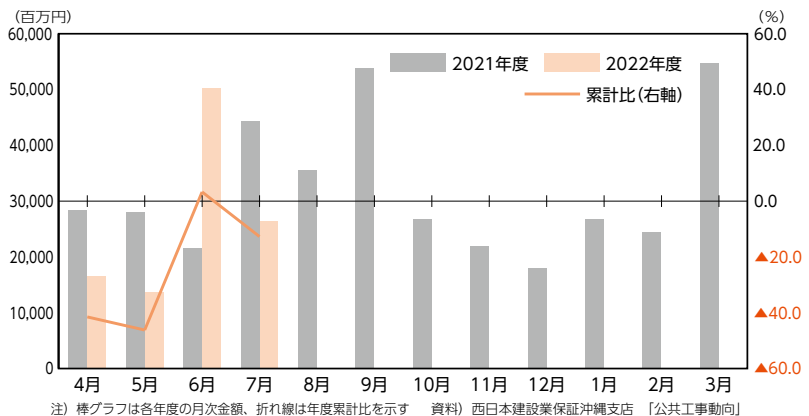
7月の公共工事請負金額は、前年同月比40.6%減の264億500万円となりました(2ヵ月ぶり減)。

発注者別で見ると、「国(同54.4%減)」、「市町村(同23.2%減)」、「沖縄県(同39.4%減)」、「その他(同17.1%減)」は前年同月を下回りました。一方、「独立行政法人等(同148.7%増)」は前年同月を上回りました。



【参考】 公共工事(年度累計)…公共工事請負金額は前年同期を下回る。

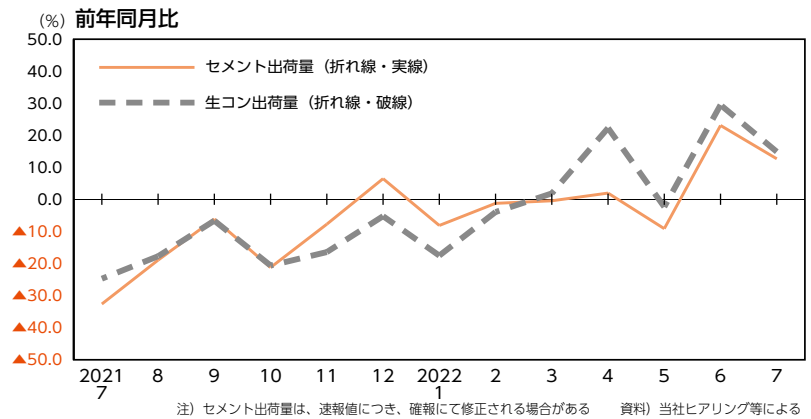
今年度累計値では12.7%減となっています。





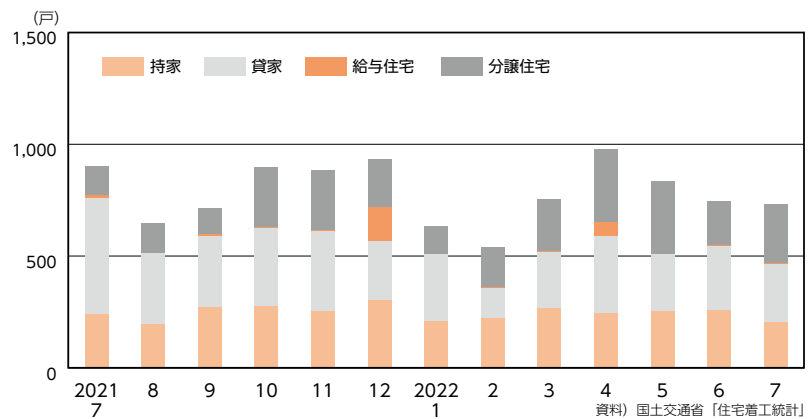
② 建設資材…生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

建設資材関連では、生コンの出荷量は14.9%増と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳をみると、公共工事向けは石垣での出荷が増加したことなどから前年同月より20.6%上回り、民間工事向けは中南部での出荷が増加したことなどから前年同月より12.0%上回りました。セメント出荷量は12.7%増と2ヵ月連続で前年同月を上回りました。



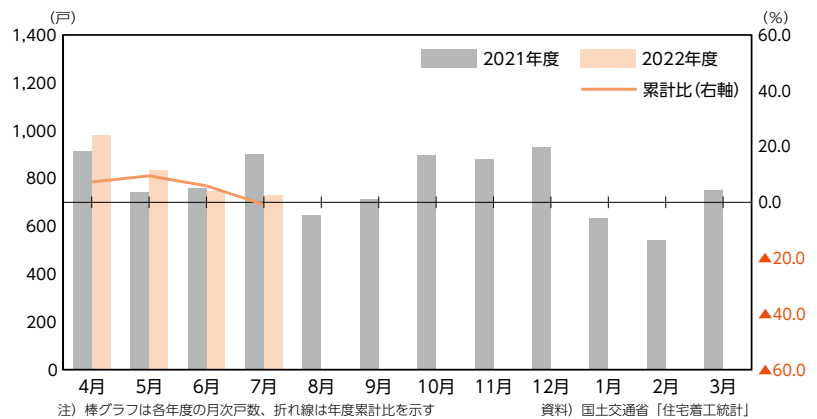
③ 住宅投資…着工戸数は前年同月を下回る。

7月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比18.9%減の731戸となり、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、「貸家（同49.5%減）」、「持家（同15.1%減）」、「給与住宅（同90.0%減）」は前年同月を下回りました。一方、「分譲住宅（同101.5%増）」は前年同月を上回りました。



【参考】住宅投資(年度累計)…着工戸数は前年同期を下回る。

今年度累計値では、0.8%減となっています。

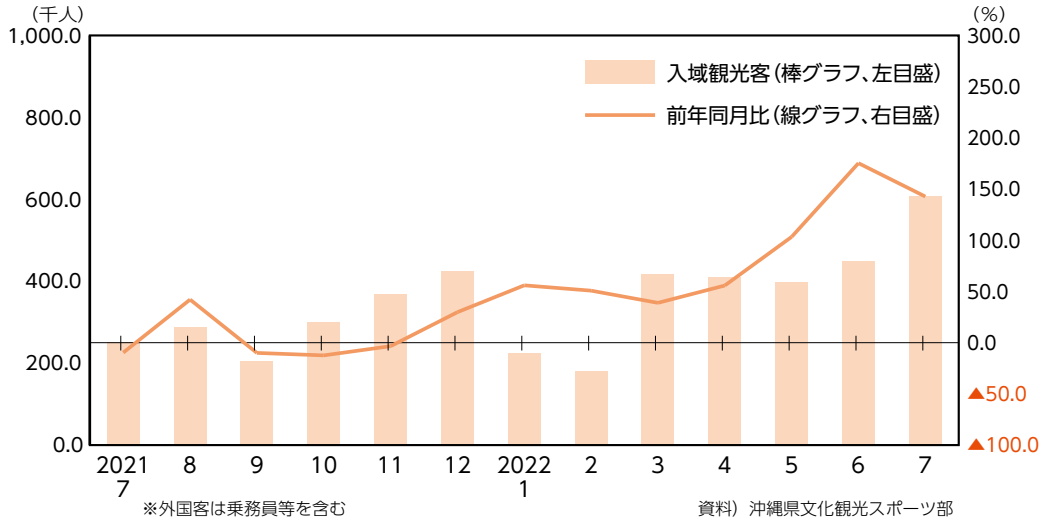


観光関連

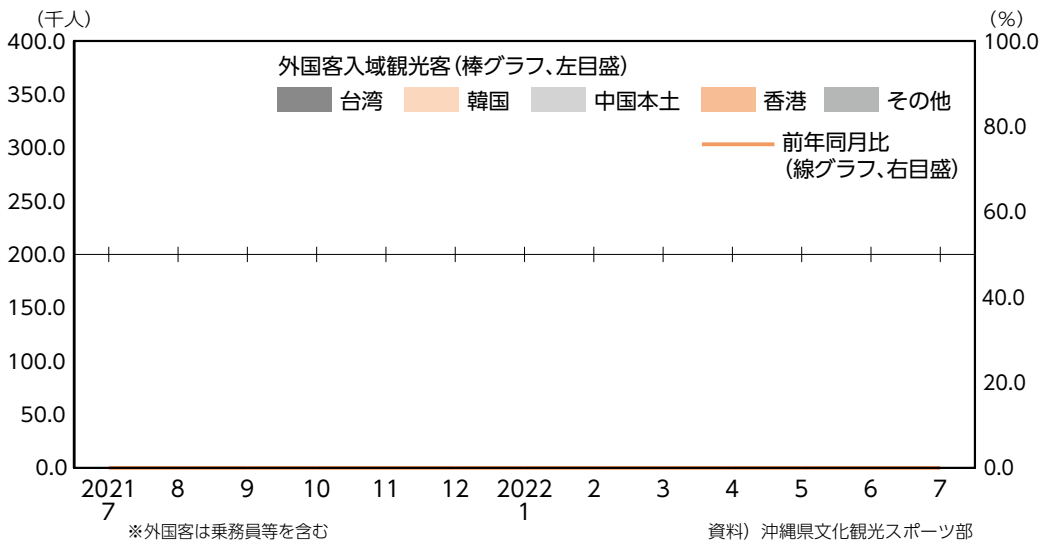


(やや悪い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…前年同月を上回る。



外国客 入域観光客数…前年同月同様、皆減。



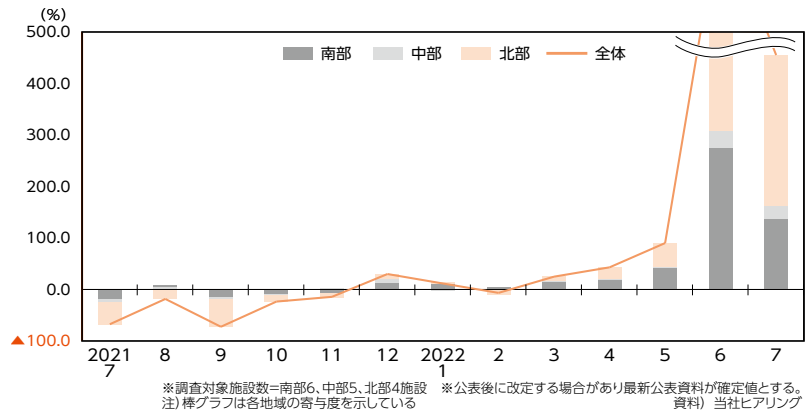
7月の入域観光客数は、行動制限がなかったことや多くの航空路線で全便運航となったことなどから、357,400人多い607,800人(前年同月比142.7%増)となり、8ヵ月連続で前年同月を上回りました。2019年同月比(国内客・外国客の合計)では、355,800人減少(36.9%減)と大きく下回っています。2019年同月比(国内客)では、53,000人減少(8.0%減)となり、差は縮まっています。外国客入域観光客数は、前年同月同様、皆減となりました。日本への入国制限措置については段階的な緩和が検討されているため、今後の動向を注視する必要があります。



② 観光施設入場者数…前年同月を上回る。

7月の観光施設入場者数は、全体では455.2%増となり、5ヵ月連続で前年同月を上回りました。地域別では、南部の観光施設は460.8%増、中部は324.3%増、北部は468.0%増となりました。前年同月は緊急事態宣言が発出され行動制限が続いたことに対し、当月は行動制限がなかったことなどから前年同月を上回りました。

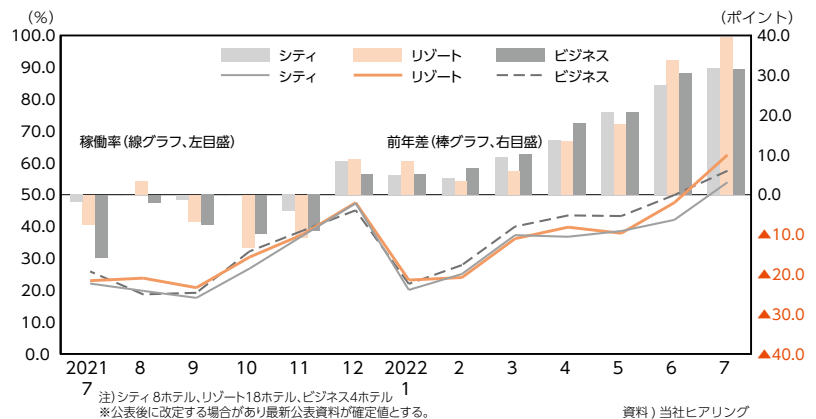
(参考) 2019年同月比では、全体で61.1%の減少となります。内訳では南部の観光施設は68.6%減少、中部は75.3%減少、北部は53.7%の減少となっています。



③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルすべてにおいて前年同月を上回る。

県内ホテル稼働率は、シティホテルは前年同月比31.8ポイント増加、リゾートホテルは39.5ポイント増加、ビジネスホテルは31.6ポイント増加しました。緊急事態宣言下にあった前年同月の反動増や、旅行マインドが改善傾向にあることなどから前年同月を上回りました。

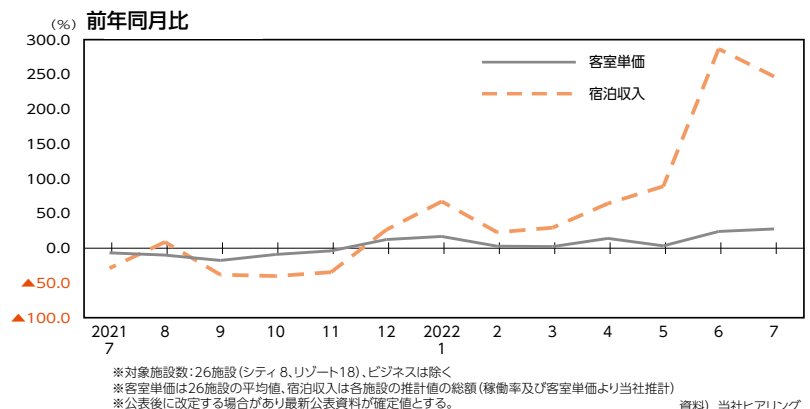
(参考) 2019年同月比では、シティホテルは24.3ポイントの減少、リゾートホテルは19.4ポイントの減少、ビジネスホテルは24.3ポイントの減少となっています。



④ ホテル客室単価・宿泊収入…ホテル客室単価、宿泊収入ともに前年同月を上回る。

ホテル客室単価 (シティ&リゾート) は27.7%増と8ヵ月連続で前年同月を上回り、宿泊収入においても247.0%増と8ヵ月連続で前年同月を上回りました。

(参考) 2019年同月比では、客室単価は11.9%の減少、客室収入は29.5%の減少となっています





企業倒産

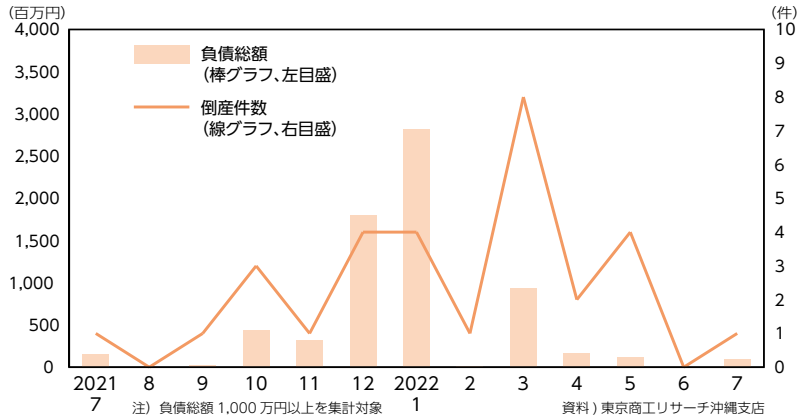


(やや良い)

企業倒産…件数は前年同月と同数、負債総額は下回る。

7月の企業倒産件数は、1件（大口倒産はなし）となり、前年同月と同数となりました。

負債総額は9,400万円となり、前年同月より39.0%下回りました。



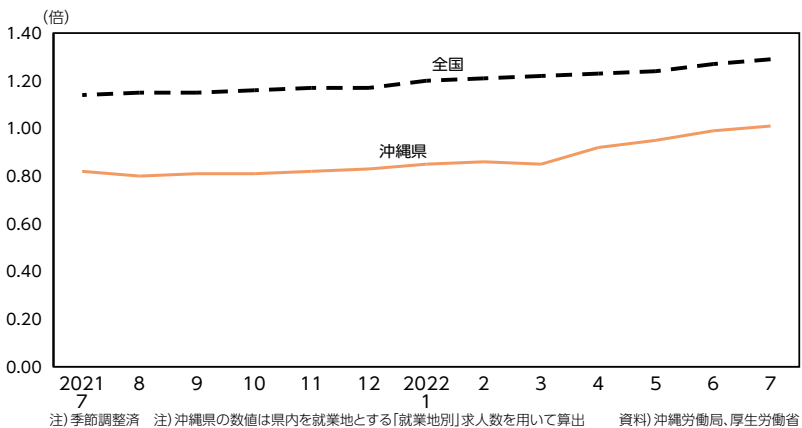
雇用関連



(やや悪い)

① 有効求人倍率…沖縄、全国はともに前月より上昇。

7月の雇用状況は、月間有効求人数（季節調整値）が前月比0.1%増の32,038人に対して、月間有効求職者数（同上）は前月比1.2%減の31,802人となり、有効求人倍率（季節調整値）は1.01倍と、前月より0.02ポイント上昇となりました。



② 完全失業率…沖縄は前月より上昇、全国は同水準。

7月の完全失業率（季節調整値）は、3.8%となり前月より1.2ポイント上昇しました。

